



【第10回小児在宅ケア研究会 年次集会のご報告】

平成26年6月7日(土)に、第10回小児在宅ケア研究会年次集会が、「子ども・家族が主体となる在宅ケアを目指して」をテーマに、名古屋大学大幸キャンパスにて開催されました。今年度も例年同様160名近くの方が参加して頂き、様々な意見交換が行われました。

今年度の年次集会では、3件の研究報告、1件の研修報告、そして講演が行われました。研究報告の1件目は、長期入院をしている医療的ケアの必要なお子さんのご家族の思いに関するもので、ご家族は、自分がケアできる事をうれしいと思ひ、またお子さんとの時間を大切にしたいと思っ

ている事、さらに看護師に対しては遠慮と同時に信頼をよせているという事が発表されました。また2件目は、重症心身障がい者を看取る看護師の体験を明らかにしたものであり、看護師は患者さんの死を意識し、複雑な思いをもちながらも、その方のわずかな反応やサインをよみとり、その人らしく過ごし、穏やかな最後を迎えてほしいという思いをもち看護をしている事が報告されました。3件目は、突然の病で障がいをもつことになったお子さんの親が体験していることを明らかにしたもので、当たり前の日常生活の突然の変化に戸惑い、我が子の回復を願いつつそれが難しいことを複雑な思いをもちながら確信し、日常生活を続けていく中で、子どもとの関係性を再構築していく過程が明らかにされていました。どの研究も、お子さんやご家族、そして看護師の体験や思いが丁寧に分析され、そのようなお子さんやご家族の気持ちを尊重しながら看護を行う事の重要性を、改めて認識することができました。

続いて、京都橘大学で行われたジーン・ワトソン先生の講演会「ヒューマンケアリングと看護実践」の内容を報告させて頂きました。ワトソン先生は、ケアを行う人がその対象となる人に敬意を払い、気持ちを集中してケアを行うと、お互い心が落ち着いたり、感情が安定するなどのケアリングの瞬間が生まれる事、またケアを行う人も癒されることが必要である事などを話されていました。日ごろの看護を行う際の参考にして頂けたら幸いです

最後に講演は、「笑顔あふれる地域社会を目指した活動 ～医療・福祉・教育の緩やかな連携を考える～」というテーマで、国立病院機構熊本再春荘病院小児科・NPO法人NEXTEP 島津智之先生のお話を聞くことができました。島津先生は、健康上の問題をもつお子さんを、地域で支えていくための様々な活動をされており、その活動について具体的にお話していただきました。先生のお話からは、健康上に問題があっても、できる限り子どもらしく生活できるように子どもたちを支えたいという強い思いをもち、多くの職種の方と協力して、様々な事にチャレンジされている様子が伝わってきました。年次集会参加者の多くが、島津先生のお話に感動し、またたくさんの刺激を受けられたことと思います。

また、今回参加していただいた方のうち132名の方がアンケートにもご協力くださいました。今年度も、名古屋周辺の方の参加が多く、また小児専門病院の看護師の方が半数近く参加されていました。経験年数は様々でしたが、11～20年目の方が最も多く参加され、経験年数が高い方が多い傾向でした。全体の感想に対しては、回答なしを除くと、全ての方が「満足した」又は「少し満足した」と回答されていました。小児の在宅ケアを支えていくためには、制度的にまだまだ不十分な点も多くありますが、お子さんやそのご家族の思いを理解し、健康上に問題があるお子さんであっても、より子どもら



しく、またその家族らしく生活できるよう、多くの職種の方と協働して、支援していく必要性を、参加者の方は改めて感じられたのではないかと思います。アンケートの中では、今後の研究会活動への要望等も様々ないただいておりますので、頂きました貴重なご意見を今後の活動に反映させていきたいと思っております。アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。アンケートの詳細は、資料として同封させて頂きますのでご覧ください。

第10回小児在宅ケア研究会年次集会は、多くの皆様のご協力のもと無事に終了する事ができました。ありがとうございました。また来年の年次集会で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

【会員からのメッセージ：第10回小児在宅ケア研究会年次集會に参加して】

愛知県立大学看護学部 小児看護学 助教 汲田明美

私は、小児在宅ケアコーディネーター研修修了後は年次集會を楽しみにして参加しています。数年前から修了生の研修会参加制度もできこちらも度々参加させていただいています。2年前までは臨床の看護師でしたが、現在は大学の教員という立場なので医療者として直接患者さんに関わることは減りました。学生の臨地実習で子どもとご家族に接する機会、本業以外では時間外電話相談員としての育児相談の機会が患者さんやご家族への直接的な実践の場となりますでしょうか。

教員として、臨地実習での機会を捉えて「子どもと家族がその人らしくあること」について学生や実習病院の看護師さんとともに考えることや、事例検討会や本研究会で「その子どもと家族」を中心にして、医療者ができることを一緒に考えることはできます。このように実際に患者さんに関わる学生や看護師さんの「その子どもと家族にとって」という思考や具体的な実践のアイデア、実践する元気を引き出す機会に関わることも、間接的に看護実践の一端を担うのではないかと思います(実際は自分自身が勉強させてもらってばかりで、という面が多いのが現実です)。

年次集會での活動報告や講演は、全国の小児在宅ケア現場での取り組みが中心で、毎回非常に勉強になり刺激を受けます。そして看護実践で「大切なことは何か」について、原点に戻り、ピュアに看護を考えるきっかけ、時間になる気がします。そして理想にとどまらず、臨床現場という現実における看護実践(私は教員としての実践となりますが)を振りかえり、実践の意味を再確認できたり、気付かなかった視点を見聞きしてハッとしたりする機会、時には難しさを痛感する機会となります。年次集會はこのような体験ができる良い機会なので大好きです。私は研修会と共に、臨床の看護師さんに勤めています。

また、年次集會は修了生のみなさんとの交流の機会です。研究会の目指すところに賛同し「志」を同じくする人たちが全国から集まってきているという事実は、「あー、私も自分ができることで頑張っていこう」と思わせてくれます。ぜひ年次集會を活用して、私と同様に、みなさん自身にも元気になっていただきたいと思います。

【第10回小児在宅ケア研究会総会のご報告】

第10回小児在宅ケア研究会総会が、年次集會と同日の6月7日に開催されました。議事の中では、現在の会員数(151名)報告、平成25年度の活動報告が行われました。その後、平成26年度の決算・会計監査(案)、平成26年度の活動計画(案)、平成26年度の予算(案)に関する審議が行われ、全ての事項について承認が得られました。詳しくは、同封させて頂きました総会資料をご覧ください。

【あとがき】

今年の夏は異常気象のため各地で災害がおこっておりますが、皆様はご無事でしたでしょうか。日ごろからの備えの重要性を改めて感じております。さて、昨年度から、会報の中に会員の方のメッセージを載せさせていただいておりますが、その他に会報への要望等がございましたら、遠慮なく研究会事務局までご連絡下さい。またホームページに関しては、現在作成中です。完成しました際には皆様にまたご連絡致しますので、今しばらくお待ちくださいませ。

* 会員の方で連絡先等に変更がある場合は、お早めに研究会事務局までお知らせください。(文責：堀妙子)

